

○三重県ドクターヘリ住民説明会質疑応答概要

平成23年12月11日（日）10時～11時

三重大学医学部臨床講義棟2階第一講義室

近隣住民：以前から三重県担当者に質問をしてある。まずその回答をお願いしたい。

三重県：ヘリの運用について、とくに飛行ルートについて運航会社から説明します。

運航会社：進入・進出ルートは、南西、南東方向からになります。航空局の基準に基づき申請を行っています。

近隣住民：基準とは何か。この方向でしかできないということか。

運航会社：航空局から指示されているのはそういうことです。しかし実際の運用は風向きによっても変わりますが、住民のご意見も聞きながら、できるだけ迷惑のかからないよう運用上での工夫はしたいと思います。

近隣住民：不時着地の問題について。駐車場が不時着地として設定されているが、車の上に降りられるのか。それで認められるのか。

運航会社：航空局はそういう判断をしています。

近隣住民：爆発の危険もある。ヘリ出動時、常に消防車が待機するのか。

運航会社：ヘリは双発エンジンであり、片方が止まっても安全に航行できる体制になっています。不時着場とはしているものの、実際にここに着陸することはまず考えられないというのが現実です。

近隣住民：最悪のことを考えなければいけない。

運航会社：運用上は、パイロットも風向きを考えたり、地上に被害を加えない飛行経路で飛ぶように運用を行っていきます。

近隣住民：ヘリポート設計の段階で三重大学施設部のほうにも言ったが、エレベーターの方向からの侵入は不可なのか。どういうアドバイスで設計したのか。

運航会社：場外離着陸場の申請には侵入・進出方向に障害物を一定基準のもとクリアしなければなりません。エレベーター方向は突起物になるので、航空法上設定できないことになっています。

近隣住民：それは分かっている。なぜそういう設計をしたのか三重大に聞きたい。

三重大学：救急部の配置、エレベーターの配置等から、現在の形にせざるを得なかった施設部 ということです。

近隣住民：騒音の件で三重県担当者や施設部とも話しているが、各県ドクターヘリ事業を始めて騒音問題で対策を始めているところがある。三重大、県ともにどのような対策を地域住民にとってもらえるのか。

対応側：（返答なし）

近隣住民：インターネット上で見ても分かるが、想定以上の広い範囲で騒音が発生している。資料にも騒音調査の結果を出してもらっているが、このポイントは任意で設定されたもので、後で追加された部分がある。また、アンケートも地域住民がとるのではなく三重大職員にやらせていた。アンケートを集計した書類はどこへ行ったのか。

大学病院：病棟の中でアンケートをとり、こちらで保管しています。

近隣住民：それは意味があるのか。地域住民が答えるべきものではないのか。環境調査でアセスメントするのであれば。

大学病院：本院は病棟が11階までありますので、その中の（ヘリポート直下の）状況がどうなのかということで病棟の中からの状況を調査したものです。

近隣住民：建物外の職員も皆アンケート用紙を個々に持っていたではないか。

大学病院：外でもとっていました。

近隣住民：その集計はどうなっているか。

大学病院：やはり、かなりうるさいというアンケート結果も出ています。

近隣住民：それに対する対策は各県とっているが、それを県環境課に問い合わせたら「津市に」と言われた。県からそういうメールの返事が来た。県はどうされるのか。

三重県：メールの返事は事業場の件だと思います。騒音規制法とか生活環境保全条例とかの対応は市の方でやっていますが、ドクターヘリの騒音に関しては、津市が直接対応するという返事ではなかったと聞いています。

近隣住民：他のところでは、県も市も対策をしている。地元病院も含めて。病院周囲について改めて騒音調査もしている。それは要請が増えて離発着回数が増えたから。再三これまでに県や市に話を聞いてきたが、すべてそのとき（説明会時）に話をすると言われてきた。HPの案内もさせてもらった。

まあ、後日返事をもらっても結構であるが。それからドクターヘリはこの上に駐機するのではないですね。伊勢湾ヘリポートですね。

大学病院：伊勢湾ヘリポートから朝8時30分に来て、17時まで駐機して帰ります。

近隣住民：日中は常時屋上ヘリポートに駐機ということか。

大学病院：そうです。要請があればここから出ていくことになります。朝来て、17時か日没の早いほうまでです。よって1日に2回の発着があります。救急要請があれば、それで行って帰って4回飛ぶことになります。一度出動すると給油しなければなりません。給油施設が遠いところにあるとまたそこに行く必要があります。そこで、給油施設を作ろうとしています。そうすれば発着回数は減ります。そういうことも騒音対策になると考えます。また、1日に要請があるのは当初は1～2回ぐらいと考えています。今後の見通しは分かり

ませんが、全国的にみても標準的です。また伊勢日赤病院と2カ月交代で交互に運航するということになります。

近隣住民：津が当番ときはよいが、伊勢のときは、北勢地域の方ではどうなるのか？

大学病院：伊勢からでも時間は10分ほどしか変わりません。どこに患者を運ぶかが重要であり、出発する所は違っても、搬送先は近くて一番ふさわしい病院に運ぶことになります。

近隣住民：伊勢の当番のときには三重大には搬入しないということか。

大学病院：三重大に搬送されることはあります。2か月間全くないということはないと思います。

近隣住民：経費はすごくかかると思うが、患者負担はあるのか。

三重県：患者にはかかりません。救急車と同じです。

近隣住民：ドクターヘリの要請は消防署が行うのか。

大学病院：そうです。搬送基準もできています。近在にしかるべき病院や専門医がいなければ三重大ということになりますし、伊勢日赤の方が近ければそちらにということになります。

近隣住民：従来より救急車が患者を乗せて30分も現場に止まっているということはよく見かけるが、30分が生死の境目ということであればそれはどうなのか。

大学病院：重症患者さんは救命センターで受けるようにしていますが、軽傷の方は実際に病院が見つからないことも多いと聞いています。救急隊もあちこち手を尽くして探しますが、あまり軽傷すぎる患者さんを受け入れてしまうと本当に重傷な患者を受け入れることができなくなってしまうということもある程度ご理解をお願いしたい。非常に困っているところです。

近隣住民：そういう考えは理解できる。

大学病院：特に津市は救急車からの紹介回数が多いと言われている。10回以上問い合わせても見つからないと30分以上かかります。大動脈瘤破裂など緊急を要する患者さんが搬送できなければ大変なことになります。そういう患者さんこそ一刻を争いますのでドクヘリで運びたい。そういう緊急性のある患者さんの場合非常に役に立ちます。

近隣住民：また大地震の場合の避難先について。指定避難場所の北立誠小学校までいければよいが、高齢者はなかなか行けない。そういう場合三重大に逃げるしかないと思っている。その際は受け入れてもらえるのか。もしそうであれば、助かるし、病院運営にもある程度協力もできる。

大学病院：確かに避難先は北立誠小学校だけでは心配だと思います。津波とかで時間がないときや、高齢の方とか一時的に大学病院に来てもらって結構です。時間があれば高台に避難して頂き、なければ大学病院にということ。ただし食

料の備蓄もないため、一時的に応急の避難場所として使って頂ければと思います。

近隣住民：一時的にでも助かる。住民にもそのように伝える。

大学病院：ヘリポートがあるので、食料等の物資も早く届くという可能性もあります。その意味では有効です。近隣住民からの騒音対策については、今明確な答えはできませんが、運航会社に対してもなるべく海の方から進入してもらい、ご迷惑をおかけしないようにしたいと思います。

近隣住民：北側から進入してもらわないと無理。

大学病院：風向きにもよるとは思いますが、なるべく民家の上空は飛ばないように願いたいと思います。

近隣住民：海側からでは自分の家の上になる。防災ヘリがグラウンドに降りる場合は南北に入ってきている。

大学病院：風向きの影響が一番大きいと思います。

近隣住民：この間も東から進入してかなり振られていたのがよく見えた。

大学病院：（運航会社に）海からというか住民の方の上を通らないというのも可能ですか？可能性はありますよね。

運航会社：操縦士です。申請上は住宅の上を通ることになっていますが、基本的には風上に向かって離着陸します。ドクターヘリ自体は運航重量が非常に軽いため、できるだけ住宅の上は避け、風に正対する形で離発着したいと思っています。

近隣住民：冬場は西風になるので海側から進入することになるはず。ところが雨の日は大抵東風になる。

運航会社：図面どおりに直線的に飛ばなくても多少蛇行しながらの離発着も可能ですので、いずれにしても極力住宅の上は避けるように離発着します。

近隣住民：そうされたとしても、三重大の建物からの反響音があるので一緒です。どの方向から進入しても一緒である。施設部は知っていると思うが。だから防音対策をしてもらわないと何も変わらない。

近隣住民：海から音がしてきたとして何分ぐらいでここに到着するのか。

近隣住民：ドクターヘリだけここに降ろすのか、他の防災ヘリなどもヘリポートに降ろすのか。

大学病院：原則ドクターヘリのみです。非常時は別ですが。

近隣住民：ドクターヘリとして申請しているので、防災ヘリは降りられないはずである。騒音に関しては考えてまた対策を講じてもらいたい。

大学病院：海側から音ができてから約20～30秒で着陸します。

近隣住民：この間のテスト飛行のときもそうであったが、反響音で音が間近に聞こえる。資料にあるこの秒数だけではない。No.1の測定ポイントで職員と聞いていたが、大きな音が聞こえてきたと思ってまだまだヘリは先。どうしても反響

音でひろってしまう。そのあたりも考慮してほしい。資料の秒数には含まれていない。

測定の時にも県の人に下に降りてきてもらうようお願いしたがまったく降りてこない。上で騒音を聞くから良いと言われたが、騒音のアセスメントをしているのに、なぜ上でやっているのかわからなかった。どう思われますか？

三重県：アセスメントに関しては、県のほうは三重大にやって頂くということで具体的な設定は事前に把握していなかったです。

近隣住民：調査をやるということで三重大から呼ばれて県から2人来ていたはず。地域の県民のことを考えたら下で見るのが当たり前ではないか。

三重県：私どもの判断としましては、三重大から専門業者に委託されて実施したので、それに合わせてお邪魔したというように認識しています。

近隣住民：お邪魔というか、それが正規に測られているのか確認するのも県の責任ではないのか。

三重県：専門業者が測定機器で行っているのです、それは信用しています。

近隣住民：改ざんとかがあったらどうするのか。さっきも言ったように早くから音が聞こえることもある。それで他のドクターヘリ運航している県でも後からいろいろな問題が出てきて対策が講じられている。それも県担当者には話をしてあるが。

三重県：機器で測定しているのです、信用しています。それを言い出すと何も信用できなくなります。測定結果が間違っているかとかそこまでは考えていません。

近隣住民：単にドクターヘリの視察にきただけですね。機器確認もしないで。

三重県：機器の確認のために来ていたわけではないです。

近隣住民：ではヘリポートで何をしていたのか。

三重県：アセスメントそのものをするために来たわけではなく、アセスメントをどのようにしているのかを見に来たのと、実際に屋上にヘリが降り立つのを見たことがなかったので屋上で視察するという意味があったと思っており、下の方でアセスメントをするということとはもともとこちらに来る目的にはしていませんでした、申し訳ありませんが。

近隣住民：それは県知事も知っているのか。メールでも聞いているが。

三重県：環境アセスメントについては、どういう目的でどういう実施方法で行うのか、当日県の職員が行っていたが、どういう状況で現場に行かなかったのかとか、確認してまた結果を報告します。

近隣住民：いや、最初始まる前に、下にも来てもらってくれと頼んだ。それを無視された。そして測定が終わってから降りてこない。再度言ったら終わってからようやく降りてきたような状況。

三重県：担当職員からは、上にいた時点では下に降りてくるようにという話はお聞きしていなかったと聞いています。結果的には後で下の方に降りてきたということです。

近隣住民：始まる前に三重大の職員から電話してもらっていたはず。

三重県：警察の取調べみたいですが、申し訳ないですが認識していなかったです。

近隣住民：大学さんどうですか。連絡してもらっていたではないか。

大学病院：しましたが、時間差はあったかもわかりませんが。

近隣住民：始まる前をお願いした。もう終わっているのに降りてこないの他の担当の人に電話してもらった。

またこの件については別で話をさせてもらおう。県の方で。

大学病院：他に質問がないようであれば、これで閉会とします。もしこのほかにご意見等があれば、県、大学病院にお問い合わせいただきたいと思います。また聞き間違い等があるといけませんので、質問等はできるだけ書面とかでお願いします。今後も騒音等で大変ご迷惑をおかけしますが、救急医療の現状をご理解いただきますようお願いいたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。